



書籍名	83歳、いま何よりも勉強が楽しい	著者名	野口 悠紀雄
出版社名	サンマーク出版	発行年月	2024年4月

若い頃から野口の書籍を通じ色々なヒントを頂きました。現状の経済の読み解き、今後の行方、超整理法のノウハウ、それを具現化した超整理手帳など多々あります。83歳になられた優れた経済学者・研究者が何を伝えたいのか、興味津々です。

2024年5月30日の朝日新聞「声」の投稿「老人ホーム入居、気持ちどう保つ」が気になりました。現在老人ホームに入居している84歳の女性です。「他の入居者とあまり交流できないことが残念だ。入居したら趣味の話やこれまでの人生を語り合える友人が作れると勝手に思い描いていた。それがかなわないことが受け入れ難く、そんな自分に腹も立って、落ち込んでしまう。どうしたら前向きにすごせるだろう。老人ホームでの気持ちの持ちようをどなたか教えて頂けませんか。」といった内容です。

多くの入居者の気持ちではないでしょうか？ シニアはさまざまな原因で精神的に落ち込みやすいのが現状です。「定年うつ」「高齢者の引きこもり」が問題になっています。野口は自身でメンタルヘルスをコントロールするこの重要性を強調しています。「勉強すれば高齢者のメンタルヘルスは向上する」という立場が野口の主張です。

野口のセカンドライフに対する新しい視点があります。「勉強を高齢者の中心に据える」楽しいから勉強する、目的はいらない。何のためにもならない勉強は、最も贅沢な消費。「人は勉強する動物だ」が野口の発見です。若い時は達成したい目標があり、そのために勉強した。高齢者は異なる。「楽しいから勉強する、目的はいらない」が新しい切口です。

勉強の妨げになるのは、記憶力の低下よりも好奇心の低下が深刻になります。高齢期の自衛策として意識して「好奇心を刺激し育てること」が重要になってきます。そのためには「知識」を増やすこと。知識が深まれば好奇心も強くなります。

具体的な方法は本書をご覧ください。現在高齢化率は30%に近く、約3人に一人が高齢者の社会です。高齢者が充実した生き方ができるかは、現在の日本の課題といえます。

岩 城

編集
後記

いつ頃からか、スキマバイト(スポットワーク)の話が気になり出したと思ったら新聞記事になるくらい、世間的にはもうメジャーな話らしい。まずスポットワークとは？スキマ時間で自分のスケジュールに合わせて働く働き方。面接や履歴書の提出も不要。全ての手続きはスマホ上で完結。給料が即日入金される利便性も相まって、人気を博しているという。介護業界でも早朝の1-2時間だけ人手が足りないという声聞きますよね？日替りの現場で短時間働くスキマバイトが高齢者にも広がっており、その背景には高齢者の働きにくさと人手不足がある。自己の経験から日雇い派遣として働き、履歴書持参で説明会に参加しなければならない、報酬が後払いだったことへの不便さを解消しようとタイミーを立上げた代表の小川嶺氏。当初は学生のスキマ時間を活用した単発バイトを想定していたが、30・40代のビジネスマンの副業としてのニーズや、シニア層の利用も活発だという。昨今のシニア層は当たり前のようにスマホを使いこなし、身体も元気で引退後も社会との接点を求める、そのニーズに合致した形。(一般社団法人スポットワーク協会調べ)2024年3月までの1年間で、ワーカーは約510万人増加、稼働人数は約1500万人。労働力人口6900万人の2割強を占める、5人に1人以上。タイミー以外に人材派遣大手のパーソルによるシェアフル、ツナググループHCが運営するショットワークス、LINE運営のLINEスキマニ、今年4月からメルカリハロ参戦。今年秋にはリクルートやdipも参入予定。益々この勢いは加速する?!タイミーは他に人手不足であえぐ地方都市の需要を掘起す為、下呂市、北海道ニセコ町、日光市、洞爺湖など9自治体と包括連携協定を締結。①町民向けにはスポットワークの力を借りて季節によって急激に跳上がるインバウンド客の需要に対処②「タイミートラベル」(地方で働く体験を通じ第2の故郷を見つけるサービス)を活用し、町外からの関係人口創出と移住・定住を目的とした取組を行う。あの手この手の働き方が登場し、いろいろな意見もあると思うが、私は旅先でバイトの「おて

発行所:株式会社ライフデザイン研究所 つたびに魅力を感じます。観光では味わえない、土地の良さを更に知れそう。
所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤